

そういったことで、これはもう糸魚川の1つの情報発信であり、全国も同じようなところで取り組み、今、全国では168の自治体、32ジオパークの全体で、今、取り組まさせていただいておるわけでございますので、ただ、それだけでは、まだ足りないわけでございますので、それを拡大していく方向でありますし、それと今ほど言いましたように、これからも続くわけでございますが、少子化・高齢化の中で、地域をどのように支えていくのか。それも待ったなしであるわけでありまので、そういったところも今スタートをしながら、また、拡充もしなくちゃいけないというところで、今進めさせていただいてるわけございまして、チーム糸魚川の活動を今しないから、それが見えないから、何もできないではないかということでは私はないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

総文でもありましたが移住支援、やっぱり若者のコミュニティの発生を促して人口増加を図るとか、海外の姉妹都市をつくろう、ものづくり大学の姉妹都市提携とか、いろいろな形でやっていただきたいと思えます。

以上で、一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

14時20分まで暫時休憩します。

午後2時10分 休憩

午後2時20分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。〔9番 伊藤文博君登壇〕

9番（伊藤文博君）

清生クラブ、伊藤文博です。

本日は、チーム糸魚川の取り組みについてと、生活弱者対策、高齢者ニーズ調査への対応についての2点について質問いたします。

1、チーム糸魚川の取り組みについて伺います。

米田市長は「チーム糸魚川」を公約とし、立ち上げを宣言して最初の募集が10月30日締め切りで行われました。

今後も随時募集するというのですが、現在の応募状況と今後の進め方について伺います。

- (1) 現在の応募状況と今後の募集予定はどうなっていますか。
- (2) 広報及びホームページでは「発起人予定団体」となっていますが、各団体との協議状況はいかがですか。
- (3) チーム糸魚川についてのその他の関係団体との協議は十分に行われたのか、そして理解は進んでいるのでしょうか。
- (4) 今後の進め方としてどのように考えていますか。
- (5) チーム糸魚川の拠点はどこに置き、どのように活性化を図るのでしょうか。
- (6) 庁内の「チーム糸魚川」として、庁内の横の連携を深めなければならない。その上で市民協働による活性化を図る必要がありますが、具体的にどのように考えていますか。

2、生活弱者対策、高齢者ニーズ調査への対応について伺います。

市内随所で、生活弱者、とりわけ買い物弱者対策の早急な実行を望む声を多く聞きます。市では、高齢者ニーズ調査を実施して生活面全体の困りごとを調査した上で対策を講ずる方針であります。毎日の生活に不自由している状況に対して早急な対策が必要とされています。

- (1) 高齢者ニーズ調査の結果と分析はどうなっていますか。
- (2) できることを早急に実施しながら、継続的改善を繰り返して全体の仕組みを構築していく必要があると考えますが、いかがでしょうか。
- (3) 今後の取組方針はどのようになっていますか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、16団体の参加をいただいております。今後も引き続き、募集してまいりたいと考えております。

2点目につきましては、発起人予定団体の皆様から設立準備会のメンバーとして参画をいただき、9月以降3回協議を重ねております。皆さんとともに考える過程が大切であり、その作業がチームワークを高めることにもつながるものと考えております。

3点目につきましては、今月に入り参加希望の団体が幾つかありますので、今後、働きかけをしてまいります。

4点目につきましては、12月18日に設立総会を予定いたしており、その後は、今年度の活動計画に基づいて活動してまいります。当面は、糸魚川市全体のチームワークを高める活動と、糸魚川を知り、糸魚川に愛着を持つ活動を実施してまいりたいと考えております。

5点目につきましては、事務所を市役所に置き、発起人団体の皆さんとともにチーム糸魚川として、力を発揮できるよう取り組んでまいりたいと考えております。

6点目につきましては、これまでも部課長会議及び関係課協議、また会議で、周知を図っており、今後は職員を対象とした研修を通じて、庁内の連携強化を図ってまいります。

2番目の1点目につきましては、困り事の多くは外出や買い物、雪対策であり、親族や近隣の方から何らかの生活支援を受けているという回答が多くありました。

2点目につきましては、必要な支援策の検討を指示いたしてるところであり、行政としてできることから実施していきたいと考えております。

3点目につきましては、高齢者が住みなれた地域で自立した生活を送れるよう、地域住民も参加する中で、課題解決に取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくようお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

まず、発起人予定団体、これがこの「おしらせばん」、それからホームページでも同じ記述なんです。これがもう既に16あるんですね、市や県も入れて、今、16団体というお答えでしたが、また今月に入って幾つか参加の希望があると。この辺あれでしょうか、この16団体と発起人予定団体の16団体は、別に16団体あるということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

広報に書かれた16団体と、現在の16団体、発起人団体は同一であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

ということは、広報で募集をしたのに対しての新たな申し込みは、なかったということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

そのとおりであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

そういうことであれば、なおさらこれからの質問の意義も出てくると思うんですけど、やはり市長が公約でチーム糸魚川ということ提唱して、実際に踏み切っていく段階で、今現在、糸魚川市で地域づくりにかかわっている団体等の協議により、より理解を深めた中でチーム糸魚川という機

運を高めていくという段階が、どうも不足をしていたんじゃないかというふうに思われるわけですね。

まず、この発起人予定団体、16団体がありますが、それは市も県も入ってるわけですが、これはどのように協議が行われてきたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

これまでの協議の過程でのご質問だというふうに思っております。

会議的には設立準備会ということで、これらの団体から事務局長レベルの皆さんから参画をいただいて、チーム系魚川の設立に向けた個別の活動等もご審議をいただいてきました。

その前提とすれば各16団体、チーム系魚川に向けて具体的な活動はということで、具体的な活動も提案いただきながら、それらの内容を構成団体で協議する中で、取り組みの方向性を決めてきたというのが、これまでの大まかな協議内容であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

チーム系魚川というのは、非常にいい発想だと思うんですよ。これを本当に効果的に系魚川のために生かしていくために、どうしようかという視点で質問していますので、これまでの取り組みで不十分なところがあれば、これからどうやって補うかという発想で答えてもらいたいと思うんですけど、この16団体の構成メンバーへの周知というのが、そのメンバーですよ、その中の末端組織までの周知というのが図られていたかどうかと。それぞれの団体の中で、チーム系魚川という考え方が浸透していたかどうか、ここが大事だと思うんですね。

メンバーを見ると本当に重立った、例えば区分の中の一番上の団体というのは全部入っているんですよ。ところが実際に活動していくのは、もうその下の人たちで、市長が言うようにチームワーク、愛着ということになると、なおさら大勢の人にチーム系魚川の理念を理解していただかなきゃいけない。そこが大切である。そうしないと、そのチーム系魚川の発想、理念のところで、その根本にあるところがお題目に終わって、生かされていないということになっていきますが、そこを補う取り組みが、これから必要になります。どのように取り組んでいきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

今ほどありました発起人団体、16団体でございますけれども、それぞれの16団体の中で十分その構成メンバーにチーム系魚川の考え方、あるいは理念が浸透してるかというところになると、まだまだのところがあるというふうに思っております。

それらも今後のチーム系魚川の活動の中を通じて、そういう構成団体のそれぞれのメンバーのところに、チーム系魚川として1つの目的に向かって、それぞれの団体が自主的に活動されておる、そういう取り組みを、お互いに連携をして進めていこうではないかという考えを広げていく、そういう取り組みは、これからもまだまだ図っていかねばならないと思いますし、それがチーム系魚川の求める姿になっていくというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

その考え方は、そのとおりなんです。それを実際のものにするために、どう取り組むのかというところが大事なんですね。

先ほど五十嵐議員への答弁の中で、今ある活動に対する評価が高まるようにということは、1つの団体が実施するイベントなりの行事に対して、参加者の理解が進んでたくさん参加して行って、枝分かれてしていくような活動も、生んでいくというようなことになっていくんだと思うんですね。

繰り返しますが、各団体のトップと話していても、その中で浸透するには時間がかかるんですよ。多分、その人たちは自分の団体といっても自分がわかっていて、会議の中で多少話しても一度伝えるだけで終わってしまう。それを浸透させるのは、やはり市長の政策ですから、やはりここの熱意だと思っておりますよ。

これまでの不足は、これからでも取り返せる。これはこれからの取り組みが、非常に大事だということなんです。関係者間のコミュニケーションを充実して、意思の疎通を図っていかねばいけない。そのために、どういう取り組みをするかですよ。方向性でもいいですね。できるだけ具体的にお答えいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。（企画財政課長 斉藤隆一君登壇）

企画財政課長（斉藤隆一君）

伊藤議員が言われますように、やはりトップだけで、今、チーム系魚川をつくるという考えではもちろんありませんで、やはりどこまで三角形の底辺が広がっていきけるかというのが、このチーム系魚川の鍵になるんだらうというふうに思っています。

まだ設立総会の前でありますので、具体的な部分については、ちょっとお話できないところもありますけれども、浸透させるという意味においては情報の共有というところが、どのレベルまでおろしていきけるか。また、団体間の情報交換の重要性も当然あると思っております。そこへもってきて各団体間、チームワークを構成する団体間同士の事業連携というのが、可能になっていくんだらうというふうに思っています。一挙に全て底辺まで下げるとするのは、確かに難しいことでもありますけれども、底辺を広げるための活動もこの中で、当然、この中で行っていかねばならない、そういうふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

そういうふうに進めていくときに、やっぱりチームというからにはその拠点が必要である。先ほど市役所という話がありましたけど、チームのコミュニケーション、これも大事だという話がありましたよね。コミュニケーションは会議のような、かた苦しいところで交わされるものではなくて、そういうところじゃないところで、もうざっくばらんに交わされたコミュニケーションが会議のような場所で、正式な決定となっていくという過程を踏まなきゃいけない。ところが、多くはそこがないんですね、その前段のところがない。そのために拠点が必要だろうということを言ってますんで、そういうふうに理解をしてもらいたいと思いますね。

日常的なコミュニケーションが非常に重要であって、そのことを図ることができれば、チーム系魚川の発想が実効性のある、効果ある取り組みとなって、系魚川市の発展に寄与してくるということになると思うんですよ。だからそのコミュニケーションの場ということについて、拠点ということも絡めてどう考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

伊藤議員おっしゃるように、チームワークを高めていくためには、情報の共有が非常に大事だと思っております。

その1つの手法としてはおっしゃるとおり、コミュニケーションをよくするということが大事でございます。コミュニケーションをとる手法といたしましては、いろんな手法があると思っておりますけれども、例えば、今の時代でございますので直接会ってお話をする、あるいは、電子媒体を使ってお互いに情報をやりとりする。あるいは、日常の率直な意見の交換ができるような場所を設ける。いろいろな手段の中で、お互いの活動内容、あるいは意見、それらを出し合いながら、お互いの活動を認め合う中で連携をとってチームワークを高め、1つの目標に向かっていくと、そういうことでございます。コミュニケーションを高める手法については、今、私、幾つか申し上げましたけれども、よりまた皆さんのチームの中の実情、お考えを踏まえながら、いろんな手段の充実を図っていくということを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

そういういろんな手段を複合的に使っていくのが、今の時代ですよ。どこでもそういうことをしてます。ですから手法を限定すると、なかなか実際のコミュニケーションがとれないということになりますし、電子媒体なんていうのは、幾らでもそこで情報のやりとりができるんですけども、これはやっぱり限界があるんです。相手の都合を構わずいろいろやれると、時間の調整も要らないという利便性もある。ところが、顔を合わせて話す以上のものはないという。そういうところで、

あらゆる手段が総合的に講じられて、チーム系魚川のコミュニケーションがしっかりとられていく。

じゃあ直接会って話をする場として、チーム系魚川のたまり場という発想の中で、先ほど日常の意見交換とありましたが、そういう場を、そういう環境を整えてやる。でも、これは初めから場所を設定してやるという、今、部長が答えたように、その構成メンバーの意見を踏まえながら、徐々に形づくられていくというようなことがあればいいと思います。最初は、金をかけずにいきます。

例えば系魚川市役所だといってもほかのところで、商工会議所のあるスペースが、非常にそういう場として生かされていくかもしれなし、ヒスイ王国館の中になっていくかもしれない。ただ、初めからそういう意思を持つてることが重要である、そんなふうにつくられていったらいいと思うんですよね。このような考え方についてどうでしょうか。さっき予算の話もあったけど、どこかで予算をかけるということも必要ですよね、かける価値があるということが見出されてからでいいと思うんです。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

伊藤議員のご提案の、そういう場所を幾つも設けながらということは、非常に有益な手法だと思っております。そういうご提案も含めながら、私どももコミュニケーションの場づくりを考えてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

きょう、このチーム系魚川の質問のかなめは、チーム系魚川自体のコミュニケーションの問題と、あとは市内のチーム系魚川です。

例えば例を挙げて言えば、北アルプス日本海広域観光連携会議の枠の中での連携についても、各課がいろんな事業について、別々の担当でやってますよね。例えば、この直近ですと、これえ～ねか博、それから系魚川橋上駅舎供用開始など、本当に近接したところで別々のイベントがあって、それは日が近接したところです。それも北アルプス日本海広域観光連携会議との連携をとりたいと、それぞれが模索してるわけです。ところが、相手はそんなにしょっちゅう来れないというようなことの中で、いろいろあるだろうと思うんですけど、そういうところでも、やはり市内の横の連携がとれていないと、調整もとれない中で、より有効な交流ができないということになってきますよね。この辺を市内のチーム系魚川、どういうふうに考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり市内のチーム系魚川が、これは絶対必要だと捉えているのは、このたび、また新たな1つ

の私の約束の中に入れてさせていただいた職員の意識改革もその一環であるわけでありまして、今までは自分の与えられた職場、それだけではないと言いながら、なかなかその域を出られなかった。やはりそれもチームワークのなさが、やっぱり出てくるんでないか。より高めるためには、やはりそういった達成感をみんなで共有できるような活動をしながら、仲間意識が大事じゃないかなという部分を感じられるわけございまして、なるべく我々の規模の市の職員は、常に何度も言う、同じような取り組みは、一体になって取り組めるよというような方向にもっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

この話を出せば、誰しもが重要であると言いますよね、どうでもいいと言う人はいないと思います。ただ、やはり市内のチーム系魚川というのは、今までいろんな場面で言ってきた縦割り弊害の排除、横の連携強化にほかならないわけですよ。市長の公約でチーム系魚川と出たときに、やはり総務部の全体の企画調整をしていく部署は、あっ、これは市内のチーム系魚川を先に整えなきゃ物にならんぞという意識が最初になきゃいけない。だからチーム系魚川を考えたときに、最初に市内のチーム系魚川というのを、そういう視点で検討したことがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

当然、チームで仕事をしていくためには、横の連携というのは非常に大事でございます。

その中の1つの取り組みといたしまして、選挙の開票事務が非常にわかりやすい事例だということで、短い時間の中ですぐに成果を出して、みんなで協力し合って取り組まなければならないというようなことで、隣の人が何をやって、どういう仕事をやってるのかという、全体の流れを十分お互いにわかる中で取り組みをするというのが、開票作業のわかりやすい1つの事例でございます。

そういう取り組みをやりながら、市内の横の連携を日常の業務の中でも、そういう視点で取り組みをしていくという考え方の中で、開票事務を早く開票するという作業の目標のもとに、取り組みをいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

それは、ほら、行政改革とかいうレベルの話ですよ。今、チーム系魚川というのは、ある部分では、その行革なんていうものを越えたものが出てこなければだめだ。僕が聞いているのは、要するに官民連携の中でチーム系魚川という発想で、系魚川市全体のチームワークを育てるといったときに、さあ、これは市内のチームワークをひとつ見直してかからなければ、チーム系魚川は推進できんぞという観点で取り組んだかって聞いているんですよ。もし、それが無いのであれば、これからそれ



をやっていけばいいわけですから、だからその視点で、ものを考えていかなきゃいけないということに対しての認識を問うてるわけですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

前段、お話ししましたように、当然、庁内の横の連携がチームワークのもとでございます。そういう視点で取り組んでおりますけども、じゃあ十分かと言われるところについては、まだまだ十分でないというふうに認識しております。

そういう中でチーム系魚川の取り組みとあわせて、庁内の横の連携、チーム市役所という意味での取り組みを、これからもまだまだ進めていかなければならないというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

市内の団体にチーム系魚川の立ち上げ参加を求めて取り組んで進めていくと、当然、それぞれのいろいろな事業とかは市役所と絡んできます。それぞれの担当課と相談をしながら進めていくというのが非常に多いですよ、やっぱり。その度合いが重たかろうが軽かろうが、必ず何か連携がある。その中で、庁内のチーム系魚川というものがしっかりできていないと、当然、市民から見れば商工農林水産課も交流観光課も同じですよ、一緒。ところが、それぞれが別々のことをやってるときに、情報が全然今度市役所に、逆におりてこないというようなこともあるし、調整が図られていると思ったことが、図られていないということになってしまいますね。

やはりまず最初に、庁内のチーム系魚川を整えなければならない。これは並行作業でもいいんです。ただ、もう早い時期にやっていくんだぞという意識が必要だと思いますけど、これまでの縦割り弊害の排除といわれたのに取り組んできたけど、なかなかそこへ行き着かないという状況で、ずるずるいっても同じでしょう。これいつまでたってもできません。その考え方はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

そういう中では、相互に市役所全体の中での仕事、ほかの課がどういう仕事をしているかというのを、常々、意識を持ちながらやっていくということが大事でありまして、そういう視点を全職員が持っていけるような庁内での報告、連絡、相談、あるいはいろんな会議、日常の業務、そういう中で意識をするとともに、そういう日常のコミュニケーションを深めていくということ、少しでも今まで以上に、さらに意識を高めて行動に移していくということ、心がけていかなければならないと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

そのとおりなんですよ、心がけなきゃいけない。でも、心がけなきゃいけないという考え方では、多分、進まないですね。それをじゃあ、具体的にどうしていくかという話になるんだと思うんですけど、先ほど情報の共有が非常に重要だという答弁がありました。

チーム系魚川という観念で情報を共有し、その情報を今度は見て、ちゃんと確認して、生かしていくという作業が必要になる。見なかったというミスを防ぐために、その見たかどうか、確認したかどうかということを、しっかりと確認できるような仕組みが必要だと。庁内のグループウェア、今、使っているものがあると思いますが、これで十分にできると思うから、これはいいですね。そこで横の連携のキーマンというのが必要になる。

今、チーム系魚川という取り組みに関してだけ言ってますので、それはほかのことにも生きていくと思いますが、庁内連携のキーマンが必要になる。これは要するにその人が必ず見て、指示を出すところは出していく。また、そのことの確認もするというキーマンが必要になる。そうしないと、本当の意味で横の連携がとれていかない。会議やなんかでやっていく、これはだめですよ、報告会なんかやったって何にもなりませんから、日常的な業務の中でやっていく。それは今ある部署の長という役職の中でやっていくんでなくて、新たにその役目の人を任命しないと、これは多分できないと思いますね、今までの業務で流されていってしまう。こういう考え方が必要だと思いますが、どうでしょうか。

+

+

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、やはり今までのような1つの行政の流れの中においては、見えない部分が結構あります。そういう中、今、これから横断的に何かしなくちゃいけないという形で捉えて、我々は職員に意識改革というものを挙げさせていただきました。

そのスタートは、今ほど具体的なものは何かといったときに選挙の開票事務。目標を定め、それに向かってどうすればいいのか。そして、その部署部署のリーダーを決めて、それがいろいろな問題解決に当たり、それで行動したと。そして終わって最後、結果が出たけれども、それに対して反省会をしたというような仕組みを今やって、そして、それと同じようなことが、我々の今までの行政課題の中にあるわけでありますので、それに向かっていけるように、またその後に各課長、同じ枠といいましょうか、事業に対しての枠で、同じように取り組める係長と面談をする中で、そういう問題なり課題というものを、また目標というひとつ目標値、具現化するものをつくりながら向かっていく方向を示唆しながら、今進めております。

今までそういったものがない中において、デジタルなり具現化するというのは難しいんですが、そういうのを極力、どうすればできるのかというのが、やっぱり一番大事だろうと。そういうものが

明確になれば、それに向かって対応できるんじゃないかなと思っております。今、そういうものができると、よりそういう行動も伴っていくのでないかなという対応をさせていただいております。2回ほど、今、そういう話をさせていただいているんですが、やはり年度内に、もう1度はやりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

役職者がその職責において、その担当部署全体を見ていくのは、これは当然のことなんですね。例えば各部長がいる、その上には副市長がいる。副市長が日常的にやっている業務ということと別に、このチーム系魚川という枠の中で、その全情報に目を通しながら、適切な連携を図るための手段を講じていくということができたらいということですね。

その情報の共有は、グループウエアをうまく仕組みづくりをすることで、かなりできていくと思います。でも、見ないんですよ。やっぱりそれを見て、ちゃんと確認して、次の手段を講じていくことが、誰かの職責として明らかになっていないと、日常の業務の中で、やっぱりおざなりになっていってしまう。だから明確にキーマンを定め、それが例えば総務部長になるか、企画財政課長になるか、それとも、その下の係長になるか、それはいいんですよ。この人が、その役割ですよということを明確にして、その人からの調整、指示には従って動いていくんだと。各担当課の課長、係長を含めて、協議をする中で進めていくというような仕組みが必要ではないかということですね。具体的に、このことについてお答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

そういう組織内のキーマンという状況の中では、それぞれ部ごとには部長がおりまして、部の中の調整というのは、部長が調整役を果たしてまいります。さらに部を超えて全体的な調整ということになれば、副市長になると思いますし、副市長の補佐役という意味では、私とその任務を果たしていくことになると感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

だから何回も言いますが、縦割りの弊害排除と言われたときに、今言った仕組みでやっているんなら、完全に全部できてるわけじゃないですか。例えば商工農林水産課と交流観光課が別々に地域づくりや物産、促販みたいな誘客の仕事をしていたのが、かかわっている市民側から見たら、何にも情報もないなんていう状況がいっぱいある。それは例えば部長制で、それが全部できているんなら、産業部長が全部調整できてははずですよ。でも、そんなわけにいかないの、これは。そういうことを責めてるんじゃないんですよ。

だからそういうことをちゃんと今、現状を把握した中で、チーム系魚川を機能させるために、どうすればいいかということをお求めているんですよ、今。今までどおりでいいっていうんだったら、これはもう機能しないですね。そんなチーム系魚川だったら、もう絶対うまくいかないですよ。もうちょっとしっかりした現状を捉えた答弁をしてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

チーム系魚川というか、市役所ですとチーム市役所になります。組織的には市役所がありますので、あとは職員のチームワークをどうするかということでもありますけども、確かに情報を共有するという意味では、職員全員がきちんとそれぞれ情報を得るとというのが一番であります。そういったことで、これを誰がチェックするのか、キーマンということになりますけども、チーム系魚川のほうも、これから担当部局をきちんとします。それから、それと一緒にチーム市役所のほうも担当部局をきちんと決めて、そこできちんとしたキーマンを配置したいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

そうしてもらわないと、これまでと変わらないことになっちゃいますね。

やっぱり難しいことを言っていないんですよ。今までちょっと曖昧だったところをはっきりして、その人が必ず情報を確認して調整を図っていく、または、その最終確認をするということが求められていることですね。

先ほども言いましたが、情報共有の仕組みは庁内のグループウェアでできます。そして、これを活用してキーマンがいろいろ指示を出す中で、庁内の機能をフルに活用して生かしていく。でも、このことをちゃんと行われているかというチェックも、またやらなきゃいけないということになる、これは例えば内部監査でやるとか。また、各部署でいろいろ生じてきた、例えばこういう連絡のそごがありましたよと。他課でこういうことをやってるのを、調整してもらいたかったというようなことに対して、またボトムアップ的に改善を図っていくというような仕組みが必要になってくると思うんですね。

キーマンを決め、キーマンがきちっと仕事をしていく。その仕事を、また誰かがチェックしながら、どんどんどんどん継続的な改善を繰り返していくというような仕組みが、業務の流れの中で、誰かが忘れたら、失敗するのではなくてチェック機能が働いていくようなことにしていかなければ、それは簡単な仕組みでいいと思うんですね、そんな難しいことでなくて。そうやっていかないと、本当のチーム系魚川は機能しない。

何回も言いますが、チーム系魚川はすばらしい発想なんですよ。これを実効性のあるものにしていくために、どうするかということをおっしゃるわけですからね、後ろ向きな答弁は、もうやめてもらいたいんですね。現状でいいなんて言ったら、チーム系魚川は機能しないですよ。いかがでしょ

うか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

そういう中ではチームワークを高めていくための情報共有の仕組みを、試行錯誤で取り組んでいく必要があると思っておりますので、ご提案のような内容も含めて、やりながらまた考えるということでの取り組みをしてみたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

次の質問でも多分出てくるんですけど、とりあえず民間が取り組んでいることを取りまとめて、1つの仕組みづくりをしてみたら、どんどん発展していくなんていうことだってあり得るわけですよ。だから、やはり最初に枠組みありきではない形で、進んでいかなければいけないという部分もあるんですね。今言うように、じゃあこれでやってみる、だめだったら変える、それでいいんですよ。ただ、大事なのは、それで変えていくという継続的改善に対する意識というのが、非常に重要になっているということですね。

また、市長の公約ですから、チーム系魚川に関する市長からのマネジメントレビュー的なチェックも必要になっていくと思います。それはやはりマネジメントレビューというのは、ISOのある程度仕組みでもあるんですけど、これがいいのは日常業務ですと見ているはずなんですけど、マネジメントレビューってときをとると、今まで見通してきたところが見えてきたりするんですね。手法はそれに限って言いませんが、そういうふうには市長のチェックというものも必要になってくると思います、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

このことを取り上げていこうという根底に、そういうものが見えてきたわけございまして、やはりこれを機能しないと、やはり我々系魚川が、さらに発展を望めないなということで立ち上げさせていただいたわけございまして、今、ご指摘の点については、我々の気づきの点だろうと理解したわけございまして、そういったものを気づきながら、我々はまた組織体制に対して要請なり、また要望、または指示をしなくちゃいけないんだろうと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

高齢者ニーズのほうに移ります。

また考え方でちょっと重なるところがあるので、戻ることもあるかもしれませんが、高齢者ニーズ調査は9月30日が締め切りでした。現在の分析の進捗状況についてお願いします。それから、またこれからどう分析を進めて、対応策をつくり上げるまでどういう過程で進めていくのか、スケジュールも含めて、ありましたらお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

アンケート終了後、できるだけ速やかに速報値を庁内に流しております。これは10月の後半であります。速報値についてはまだ、いわゆる自由意見欄という部分が反映されてない部分でありますけれども、関係各課において施策協議を行うという中では、自由意見欄も、もちろん大切なんですけれども、質問項目を分析したもので各課へ検討依頼がされている状況であります。

現在、実施計画もそうでありますけれども、新年度予算に向けた協議が進められておまして、特に、全庁という部分よりも、むしろ幾つかの関係課が出てまいりますので、担当課といいたいまいしょうか、そこを含めて今、新年度に向けて事業化できるもの、あるいはまた次年度でなくて、それ以降に事業化するものもその中にも含まれてまいりますので、そういった事業の仕分けをする中で、現在、特に新年度で実施すべきものについて検討を進めている段階であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

この春、総文で買い物弱者対策について質問したときには、高齢者ニーズ調査を今年度行って、その後、総合的に対策を考えるという答弁でした。そのときに高齢者にとって、一日一日が困り事の連続なので、やれることから随時やりながら改善していくべきだというような意見も出したところですが、要望もしたところですけど、困り事全般に関して、今、新年度実施という話がありましたが、もう既に取り組んでいることもあると思うので、どのような取り組み状況、取り組み方針になっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

伊藤議員から所管の常任委員会でもご意見をいただいております。その点につきましては、十分承知をしております。

大きく今回の調査で柱となる部分については、買い物と、ごみ出しと、雪対策といいますが、除雪という面であります。もちろん、これだけではありませんけれども、上位3つということになれば、そういうことあります。

それで、その特に買い物支援、特に中山間地におけるということが多いわけでありますけれども、

これについては次年度ということではなくて、今年度からという部分もありまして、実はこれについては民間が、既に先行して開始されておられる移動販売等もございます。それに加えて、商品の配達というようなことで、市内の各商店、いろいろな分野がありますけども、今、80店舗ぐらいいなってますけれども、登録をいただいて、その情報を皆さんにお流しするというので、配達による調達が可能になるというような取り組みも今年度中に、年内というような取り組みに向けて担当課を中心に、今、事業を滑り出しております。

特に、民間の部分につきましては、車両台数も1台から3台に増強して、地区要望にも応えていただいているというのが現状であります。これらはすぐに着手して、ご要望に応えられる内容であろうというふうに思っております。そんな状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

これなんか先ほどちょっと言った、民間が取り組んでいることを行政で取りまとめる。だけど今度は困っている人が情報をうまく入手して、その民間の取り組みを活用していくというふうになっていかなきゃいけない。それは今後予定として、今年度、もう既にということですから、どうなってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

今度、利用する側からの希望、意見という部分については、行政懇談会の場とか、あるいはまた地区訪問懇談会の場で、例えば現行行われている移動販売についての受けとめ方等も、全ての地区でありませぬけれども、地区訪問で出かけるところとかについてはお聞きをして、現在の取り組みをさらに進めたいという結論になって、進めてきてるものであります。

やはり高い評価を、私の言い方はあれかもしれませんが、住民側からすると、大変ありがたいという多くの声がいただけていると。できれば品数がもう少しふえればとか、そういうようなご希望があるのも事実でありますけれども、いずれにしても、自分から出向かなくても一定の場所へ来ていただいて、近場で買い物ができるということに対しては、住民側からも大変喜んでいただいているということは事実でありますので、これらをまた踏まえながら、今後の事業継続をしていきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

そうしますと今の民間の取り組みというのは、近々、周知されるようなことになっているんですか、今、実際に困っている人たちに対してですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

買い物弱者の部分につきましては、今、いろいろと企画財政課長のほうが答弁させてもらったところでありまして、当商工農林水産課のほうといたしましては、商工会議所、商工会の会員の皆様で、もう既に移動販売車を持って移動販売してる方、あるいは配達をしてくださっているお店等がございました。ですけれども、会員の皆様にいま一度、昔ながらの御用聞きという商売を見直してみませんかというふうな声かけで、まごころ配達サービスという事業を周知をさせていただきました。

今、ここに一覧表があるんですけれども、これを今月の25日の「おしらせばん」をもちまして、市内の全世帯に配布をしたいというふうに考えております。配達料ですとか出張費用等は、それぞれのお店のお考えであるわけでありまして、とりあえず今、買い物に困っている皆様のところへ、どういうお店が配達、また、移動販売するよということを、まず知らせたいということで、この一覧表を今月中にお配りしたいという予定であります。

なお今後、やはり御用聞きということになりますと、移動することでの経費等も多少かかってくるわけでありまして、そういう部分は動いてみていただいて、またお店の実情、また、市民の皆さんからの実情を聞く中で、見直すところは改善をしていきたいというふうなことで、まずは年内に走りたいということで、今動いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

高齢者対策も、やっぱりチーム系魚川だと思うんですね。チーム系魚川市といいますかね、庁内のチームでやっていかなきゃいけない。行政の場合の取り組みだと、多くは最初から十分な計画をつくらうとする、そして時間をかける。そしてでき上がったものが、例えば不十分なもの、当初はよくても、時代の流れとともに不十分なものになっても、なかなかバイブル視して、計画を変えようとしません。

ところが、例えば市が今度は発注者として、例えば工事を発注する。内容が変わってくると、当初、出させた施工計画書はどんどん変更を求めて、実情に合ったものに変えさせていくわけですよ、そういうことはできるわけですね。自分たちの構想とか計画というのは、10年たっても変えないというのは結構ある。新幹線駅周辺構想なんか、何回も言いましたけど、整備構想ですか、これだって平成13年に定められたものを、まだそのまま使っているというような状況で。これからは、そんなことではいけないと思うんですね。

チーム系魚川の発想で、柔軟に対応するために、高齢者の生活対策もやれるところからどんどんやっていくと。だから新年度から始めることについても、やはりそういう姿勢が必要だと思います。今、買い物弱者対策はあるものを集めながら、なおかつ働きかけて改善をして、今、枠組みをつくってスタートしようとしている。既にもう始まっているところもあるわけですが、そういうような発想で、特に高齢者対応ですから、どんどん実情に合って変えていく必要があると思うんですが、



これはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく、今、市民生活において、非常にお困りの方が出てきてるわけでございまして、中山間地、そして町場の中、同じ困っていても、ちょっと違う部分があって、なかなか統一的なものがとれなかったわけですが、まずはやってみて、その中で整理をしていけるんでないかなというような感覚で、スタートをさせていただいております。

ですから今ご指摘のように、どうしても行政は完全なものを目指す部分があります。目指すといいましても、全然未知の中へ行くわけでございますので、100%のものができてない中において、結果的には、同じことになるわけでありますので、早くやって問題、課題を明確なものを捉えながら、軌道修正していくのもいいのではないかという感覚でありますので、ご指摘のような形で、これからも進めていきたいと思っておりますし、また、これからも同じような課題、問題等もあろうかと思うわけでございますが、そのような対応でいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

今の買い物弱者対策の取り組みが、これちょっと先ほどの質問に戻して考えてみると、チーム系魚川の取り組みに、いいモデルケースになるんじゃないかと思うんですね。民間側の取り組みを市がコーディネートしながら活性化させて、仕組みをどんどん変えていながらコミュニケーションをとって、いい形にしていくというふうに考えていただければ、何かちょっと方向性が見えてくるかなという気がします。

高齢者ニーズ調査は、12項目を担当部署で分析というふうになってはいますが、大まかにどんな担当割りとなっていて、細かくはいいですよ、それで、それを取りまとめて政策決定していく過程というのは、どのように進められていくのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

先ほど申し上げましたように、大きくは今、3点がクローズアップされているというふうを受けとめておりまして、これらへの対応ということで、1点目の買い物につきましては、今、説明したとおりでありますけれども、2点目のごみ出し支援、あるいはまた雪の対策等の問題であります。

これらの実は共通している点でありますけれども、いろいろ介護保険等も含めた現行制度が、うまく理解いただけていない部分があるのではないかと。そういう部分も、もっとわかりやすくお知らせをしていくということと、あわせてほかの制度も、今、幾つか提案が挙がっております。それら

を関係課で、企画財政課も当然入っているわけでありまして、関係課の施策の中で具体化したものを、新年度予算に反映していきたいというふうに考えておまして、プロセスとすれば、もう少し庁内協議で分析結果を踏まえた施策立案の検討を踏まえて、予算化という段階にいきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

私も項目を見て挙げてみると、それぞれほとんどの課が関係してくるんですね、調査項目の中ですよ。その中で、どの施策をするかというのが今、課長が言われた話だと思いますけど、先ほどの買い物弱者のことで、ちょっともう1回聞きますが、協力できるのが、今、80社以上になっている、100社近いとして、サービスの内容と、それから3地域のバランスというのは、どんな感じになってますかね。ある程度、網羅できるような形になっているのか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

一覧表に掲載させていただきました店舗は、約100店舗になります。地域のバランスと申しますと、やはり糸魚川地域が商店は非常に多いところでありましてけれども、糸魚川地域の商店であっても、能生地域や青海地域に配達できるというふうな事情をもって対応していただける商店もございますので、能生、青海地域でカバーできないところは、糸魚川の商店の皆さんにもカバーしていただける部分があるんじゃないかなというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

それで高齢者ニーズ調査の結果について、民生委員さんたちとの情報の共有と連携というのは、今の段階でどうなってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

民生委員さんとの協議につきましては、これからでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

これからだけではわからないので、これからどういう予定になっているか。要するに施策を決定していく段階で、やはり民生委員さんの意見も聞くべきだと思うんですね。そこでの情報というのも重要になってきますから、その辺どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

地域ごとにいろんなニーズがありますので、その部分をまとめまして、民生委員さんの協議会の中でお話をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

本来であれば調査の段階で、高齢者の方に直接聞き取り調査をしたということですが、非常に丁寧な対応をされたと思うんですけど、やはりあわせて民生委員さんからの情報を踏まえて、本来であればその前に踏まえておいて、聞き取り調査の中に生かしていけたら、何かよかったのかなと思うんですけど、そういう段階というのは踏まれたんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

アンケートをする前に、民生委員さんにもアンケートの内容について周知させていただきました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

それだとアンケートの内容を決めて、それを周知したということで、要するにアンケートの前に民生委員さんの意見も聞きながら、こういう地域ではこうだから、この辺はよく聞いてやってくださいというようなことが、やはり生かされていくべきであったのかなと思うんですね。それがされていないんだとすれば、これから内容分析の段階で、それがやはり生きていかなきゃいけない。アンケートの内容だけじゃなくてプラスアルファで、こうやって出てきてないけど、こういうことがあるんだよという話が出るかもしれない、直接聞き取りしてると緊張してしゃべれない。ところが、

民生委員がいろんな話をしてるなんていうこともあるわけですから、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員ご指摘のとおりだと思っているんですが、まずは今の新たな施策、制度をやらないでも、今、対応できる部分があるんでないかということでスタートさせていただきました。

アンケートの中にも、やはり民生委員のお考えも入れさせていただいてアンケートさせていただき、そしてこれから今、できる範囲のことをやりながら、そしてもしかしたら施策の中で、もっといい方向にいく可能性もできるんでないかというところで、生かさせていただければと思うわけがあります。

ですから今、急遽やったのは、いろんなところで皆さんがしっかりやってるけれども、行政もちょっとわからないところがあったり、本当に過疎の最前線、高齢化の最前線で、商店と住民の皆様方がやっておられるようなことを、我々が知らなかった部分がございます。そういったものをお聞かせいただきながら、全市の一連の情報を集めて今回スタートさせていただいて、また、その中で、さらに新たな展開の中においては、糸魚川であっても青海、能生にも対応できますよというような商店の皆さん方のお力もいただいたわけがございますし、そのほか、さらにそれで足りないものは何なのか。また、それを強めればどれがいいのかというような形の中で、またいろんなお考えを入れていただいて、施策にもっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

市内のいろんな立場で動いてられる方を、上手に連携をとっていくということは重要だと思うんですね。

例えば郵便局、これは民営化されて郵便局の体制が変わってしまったので、やはり今、臨時職員の方が多そうですね。そういう中で何ができるのかということがあるんですけど、必ず毎日、場所によっては午前・午後、2回回るというようなことの中で、郵便局の方々と、どういう連携がとれるのか。全国的にいうと、ある地域の郵便局では見守りサービスをしている。それは例えば遠く離れた家族から、月々例えば1,500円というような費用の中で見守りサービスをして、報告を上げているというようなこともあります。

そういうふうに今の体制の中で、できること、できないことがあるのかもしれませんが、そういうところと連携を図っていくという。郵便局だけとは限らないんですけどね、そういうことも視野に入れて、やはり高齢者対策を考えていくということは重要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々のこの糸魚川市は非常に広範囲であるし、山間部、また中山間地があるわけでごさいますので、どうしても回るところがあるわけでごさいますので、そうやって巡回して、いろんな事業といいましょうか、仕事を展開している人たちがいるので、そういった人たちにも、また今、我々の非常に課題となっている点についても、支援をいただけるような連携も必要だろうと思うわけでありまして、郵政民営化というのが、その辺の部分を含めて今まで受け持っていたいたんですが、民営になったら、なかなかできない部分、変わった部分もあるわけでごさいますので、しかし、事業展開という形の中の、また1つの新しい結び目というのができるのかもしれないし、また、ほかの組織も事業体も、そういう市内を回る部分でごさいますので、そういったところに何ができるのか、そういったところもやはり探していかなきゃいけないんだらうと思っております。

1本では、なかなかできないかもしれないけれども、合わせ技の中では、また経営的にも進められる部分もあるらうかと思うわけでごさいます。そういったところの情報交換というの、必要だというふうにも感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

すみません。1点お話させていただきたいと思っておりますけれども、今、市のほうでは、高齢者等の見守り支援ネットワークということをやっております、例えば金融機関でありますとか牛乳屋さん、新聞屋さん。今現在では24社のほうと協定書を結ばせていただいております。

郵便局に関しましては、協定書ということはなかなか難しいけれども、見守りはさせていただきますよというお話をいただいております。

そんな中で、地域の高齢者の方の異変に気づいていただけるような取り組みも、させていただいております。

以上でごさいます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

さっき挙げた郵便局の例は、これはやっぱり仕事として地元にはない家族と契約をしてやっていくということですから、そういう取り組みもある。それからボランティア的に、地域と密着してやっていくという取り組みもあるんだと思いますね。

ぜひ郵便局とも一度、そういうほかでやってるという例があるそうだけど、ここではどうなのかということも協議してもらいたいと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

民営化された郵便局の取り組みについては、これまでも一般質問の中で、ほかの議員の方からもご質問いただいております。

情報はお互いにやりとりしておりますけれども、まだそれ以来、新しい情報としてありませんけれども、ことしから試験的に、今、伊藤議員の言われるような見守りネットワークサービス、有料の部分でありますけども、そういうサービス。あるいは、また宅配等も含めて始まっております。

信越郵政局の管内では、再来年になると思いますけれども、実施されることも情報としては聞いております。ただ、具体的な内容については、まだお示しできないということでありまして、民営化の前に公営だったときに、行政側とそういった協定を結んで見守り等も行っていただいた経過もあります。場合によれば、今度はそういうこともできるかもしれないということも、情報としてはお聞きしておりますので、郵便局との連携というのは、非常にそういった意味では大切だなと思っておりますので、今後、情報収集と情報交換に努めてまいります。

ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

高齢者の離れた家族の心配事というのはあると思うんですよ。次の段階としては、そういうところへの抜き取りでもいいですから調査をしてもらって、それに対応するサービスがあるのかなのかということまで、また進めていただければと思います。

ありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

午後3時26分 延会